

石原六郎日記

石原莞爾將軍実弟石原六郎氏の日記を掲載するに当たって一言申し添えます。

日記は昭和4年から亡くなるまでの間、かなりの年月にわたって存在し、又その量は夥しいもので、ここではそのエッセンスとして逝去なさる以前の3年間、昭和49年1月1日から逝去されました昭和51年12月16日迄を公開させて頂く事にしました。年代的背景については昭和49年11月11日は、將軍未亡人が逝去され、昭和50年・51年は石原莞爾全集問題と、私共先輩有志が起ち上げた「新アジア連盟」発足当初の年でもあった。日記の随所にその経緯を示す言動が記されている。その他六郎さんの人となりについては、永久平和誌65号・67号に関連記事が掲載されてあるので参照されたい。

昭和49年1月

表紙に49年 思想の肉体化 体で覚える

(繰り返し) 簡素元年

明るく静かで輝いているべきです (ロダン)

1月1日 (火) 曇

西山の人達がお詣りの帰りに来て入江、武田、歌川、小松四氏上る、正男、良、克夫、つづいて俊夫の各氏来訪、喜一郎は電話、入江、武田両氏はしばらく居たがやがて帰り、党员だけとなる。正男君持参の酒と菅井巡査が27日持って来た酒を出す、夜和子さんから電話、明日帰院の由、

註 入江辰雄、武田邦太郎、歌川平次郎、小松健作、以上西山の住人。斉藤正男、菅原良、菅原克夫、今野俊夫、以上は遊佐町の人で曾て東亜連盟青年隊、現研究会会員鈴木和子さんは西山の会員で体調悪く町立病院に入院中だった。喜一郎氏は清水氏の本堂氏か？

1月2日 (木) 曇

今日は郵便も新聞も配達なし 年賀状整理、電話での返礼も10ほど

出 須田（「新日本の進路」）

中田与志夫（年賀を兼ねて反論）

註 日記後記の出、受は外部との連絡メモ、（括弧内のデとは電話の事）

1月3日（木）曇

夜次のところに電話する

出 1、佐藤芳太郎氏 2、真山元輔氏 3、小田桐孫一氏（酔って寝た由、夫人と語る）

4、渡辺昭治氏（一日かせカゼで寝ている由）5、本間斗見夫氏 6、佐々木秀雄氏

7、向林喜久造氏（他出中）

受 向林氏（出先から電話してくれた）

出 中田与志夫志の年賀状に書いてあったこと、

①「節刀将軍」は石原莞爾である、

②戦争放棄で最終戦争はなくなったに対しても少し書く。

註 1、2、3、4、5、6、7 協和党中央参与会員、真山元輔 石巻・小田桐孫一前文藝春秋編集長・渡辺昭治協和党事務長・向林喜久造岐阜高山中央参与。

1月4日（金）曇

8.55 のバス、山銀前から 9.30 に乗り換え 2 百人町下車、中村さんー高橋さんー病院）（姉

はカゼ治る) 白井、一級酒一本もらう、山王前から 2.45 のバス酒田 4.08 発、帰宅夜邦太郎氏東京に帰るとて娘と玄関まで、

出 昭治 (デ)

註 中村さんは姪静さん・病院は庄内病院・白井は当時の鶴岡市長白井重麿氏

1月5日(土) 雨→雪

8時半雨の中をバイクで出発、正男君に直行、彼は二日酔いで寝ている。政治君一家いる彼と大分語る。客寄せらしい。10時辞す、善一郎君の前で夫人と合う、善一郎君は不在の由、弥一郎さんの玄関により、モチの礼を述べる。昭和氏に電話、今日は仕事で外出中だという。夕方、甚一君から電話あり、飯田温泉の所在の問い合わせだ、夜、大槻がいつか泊まった仙台の宿から電話してよこした。

出 昭治 (デ)

受 甚一 (デ) 大槻 (デ)

註 正男は斉藤正男・政治は榊原か・甚一は黒川村の遠藤甚吉息・大槻忠夫会員(仙台)

1月6日(日) 雪 山形は曇

飯田温泉 7.41 で出発、月山定刻発車、雪のためか山形着は 45 分ほど送れ、バスで文昇堂、お茶をご馳走され、警察アパートを出る、緑町では吉野氏仙台行きで不在、渋谷氏居る、東原町では板垣氏居る、(黒松を約束) 7 日町を歩き市役所前から葉山行きバスに乗り飯田下車、そばを一杯、4 時近く飯田温泉に入る。酒宴中だ、小田桐さん、佐々木、渡辺、本間、熊谷、中村孝、草刈、佐々木博外一、甚一外一。良太郎、ぐらいだ、女子は不参、数も以外に少ない、孝太郎氏は大いにしゃべったらしい、期待に反したようだ。6 時過ぎ散会、佐々木父子、渡辺氏とタクシーで文昇堂に帰り、酒、

註 熊谷浩読売新聞山形勤務・中村孝太郎山形ユネスコ協会長

1月7日（月）山形晴 庄内小雪

7.43?のバスで駅、小田桐さんが来ないので飯田温泉に電話すると8時頃出た由、8.40になっても見えないのでホームに入る、やはり居ない、ブリッジに戻ると、先生が上がってきた、朝酒をやったのだという、8.49の千秋に乗る、新庄で別れ、余目で乗り換え、病院、白井に寄って1.51の下り酒田止まり、3.30の女鹿行で帰宅。

受 本間（デ、三浦真〇のこと）

1月8日（火）曇

静かな一日、年賀状追加や漫画ハガキ（昭治君と博くん宛て）を書き、局に出しに行き、バイクのタイヤを新調（前輪）した。訪問者も電話も手紙もなく暮れた。

1月9日（水）曇 夕方から雪

仲條君から電話あり、4時来訪、酒を飲む、明日より西荒瀬の事務所開きの由、本間久治宅に電話し、仲條君と同道訪問を約す。

受 太田幸一

出 本間久治（デ）正昭 博（漫画ハガキ）

註 本間久治氏・本間物産常務

1月10日（木）雪

3.07 の急行で酒田に至り、あちこち歩いて時間をつぶし、市役所ロビーに 4.30 頃ついて待つ、55 頃仲條君出現、彼の車で本間久治氏の新邸に至る、まもなく久治氏帰宅、仲條君を紹介、夫人の手料理と酒が出る。大いに語る。8 時頃辞す。初孫一級を一本頂戴。仲條君の車で西荒瀬の向島運輸の新事務所拝見、わが家まで送られ、仲條君はすぐ菅原さんに行く、すぐ本間夫人に電話して礼を述べる。本間斗見夫君から電話あり、石巻の三浦に行き〇〇〇を買って来た由、

受 小田桐 首藤 田々宮 (史) 本間斗見夫 (デ)

註 田々宮氏 (史) 編集発行人。首藤は首藤雄平氏か？

1 月 11 日 (金) 小雪

9.26 の列車、遊佐から今野君と同車 酒田で 10 時の普通バス、山王前下車、辺見君に寄る、夫人不在 病院、貞子さんに食券代を支払ったが手間 10 時間支払いを忘れ大失敗白井に寄り、鮭 3 切を貰う 1.51 に乗り、酒田下車、4.08 で帰宅、夜仲條君が事務所に電話が開通したと知らせでよこした。

受 須田 仲條 (デ)

1 月 12 日 (土) 小雨

正男君来訪、昼食はドライブインまつやでカツ丼を供しそこで別れる。夜仲條君が肴を持って来訪、酒を飲み彼は 9 時 30 分事務所に帰る、仲條君の母堂が持ち出された荒木嬢を重隆君に世話しようかと和子さんに電話する。

受 鋭子 (デ) 邦太郎「潮流」大場 (デ)

出 邦太郎 田々宮 首藤 戸辺 (デ) 大場 (デ)

午後大場さんが新庄から電話してよこした、30 日まで休みたいと貞子さんに電話して承諾

されたということだ　すぐ貞子さんに電話して頼む、

註　和子さんは白井市長夫人。

1月13日（日）曇　夜　晴　M(株)

真山君から電話あり、招待だ　午後4時仲條君来たり、菅原氏方に行く、母堂来り劔持氏と初対面、酒をごちそうになる劔持氏と同車、酒田市内に直行劔持氏を氏の宅まで届け、すぐM(株)の事務所に戻る、風呂に入り仲條君の手料理をごちそうになる。私は酒を飲まず8時辞し、歩いて駅、8.55頃着10.04の終列車で帰宅は10.45頃久し振りに星空だ。

受　真山（デ）小林正之、中田与志夫、山本幸子

出　富樫信夫、小田桐孫一

1月14日（月）雪

快晴を期待したのに雪だ、9.26酒田まで妙ちゃんと同車、妙ちゃんは喫茶店のアルバイトの由、10.15の急行バスすっかり時間とる、下肴町下車、ゑびす屋、病院、貞子さんに支払い、姉は時に歌など歌う由、頭に来たのかも知れぬ。服部からカステラの見舞、電話して礼、白井、1.51で酒田。4.10下りで帰る

受　白石辰男（松島の写真）

出　白石（デ）昭治（デ）

註　妙ちゃんは西山の鈴木和子氏娘、服部氏は石原家の縁戚、

1月15日（火）雪（山形では晴）

山形行 雪の中を 6.33 に乗り月山 2 号に乗り換える、山形着 9.42 駅の本屋などをぶらつき、10.30 頃駅前に行くと、ちょうど本間君の車が着いて、本間君宅に行く、昭治氏先着、佐々木君が来ないので 3 人で編集相談、やがて佐々木も来る、いろいろご馳走が出る、3 時半頃辞して文昇堂。佐々木帰り、昭治氏と仲條母堂に至る、熊谷夫人が居たがすぐ帰る、4 時半ごろ別れ、私はバスで 7 日町、歩いて駅 6.08 の月山 2 号

出 本間斗見夫 (デ) 佐藤芳太郎 (デ)

1 月 16 日 (水) 吹雪

気温下り、粉雪が風で拭き卷く、老令でつかれたのかコタツでうつらうつらと過ぎた、

出 昭治 (デ)

註 居宅は老朽化し粉雪のみか微細な砂も、まじるのが現状であった。

1 月 17 日 (木) 吹雪

正男君が酒田に志保子嬢を送った帰りとして寄り 11 過ぎ帰り行く、12.15 女鹿発バスで聾学校前下車、仲條君と訪い母校からの届け物を渡す。仲條君と酒田に出、武田泉に書物を注文、菊池の駐車場に車置いて阿曾君に行く不在 (カギ) ムーミンに行き二人でコーヒーを飲む、あんな店に妙ちゃんを働かせることは気掛かりだ。歩いて萬谷に行き表札を注文 (仲條君は茶碗など) 再び向島の事務所、3.10 のバスありとのことで待ったが 3.35 頃遊佐行きが来た。仲條君に送ってもらう、彼は菅原さんを廻って帰る、

夜、正男君に電話し、20 日仲條君のところで飲むことにする。

受 富樫信夫

出 吉野忠一 正男 (デ)

註 志保子嬢 = 桐谷敏子氏娘岐阜青山家に嫁す。

註 中田与志夫氏＝向林氏と一緒にの岐阜県同志。

1月18日（金）吹雪

12.54の上りが25分遅れる、妙ちゃんが朝ユザに行き、この列車で酒田に出たはず、和子さんを訪ね、ついに自制しかねて妙ちゃんの職場、酒田「ムーミン」に対する不安を極言したので和子さんに泣かれる、すまないことをした、2.15の下りで帰る、夜佐々木春さんからスイマグを売る佐藤伝兵エの町を聞いて来たので、そのうち貰って来て上げることとする

受 佐々木ハル（デ）

1月19日（土）吹雪

水道は完全に凍った、9.26に妙ちゃんと一緒に向う途中昨日の和子さんへの不注意な意見を詫げる。20分遅れて鶴岡でバスに乗り下肴町下車、病院、ようやく正午前到着支払い貞子さんにも、一度街に出て買い物。白井一辺見、山王前からバス、本町下車、佐藤伝兵エでスイマグを買う、佐々木女史のもの 南高前から遊佐行きバス（駅 3.10）に乗り豊学校下車、車がないので仲條君は不在と思ったが念の為ドアを開けると居た、車は車庫にあるのだ、駅 3.30 女鹿行が 35分おくれて来たのに乗り帰宅。

出 佐々木（デ）

1月20日（日）曇小雪 仲條君宅

1時半正男君が迎えに来たのですぐ同乗、十里塚から山を越えてM(株)に至る、すぐ酒が出る、2人の運転手（古荘と某）も加わり、酒宴となり、大いに話がはずむ途中、風呂に入る、やがて正男君の車に送られて家に入る、6時、

註 小生メモによると（古荘と某）の某は島村喜一で面白い取り合わせであると記す。

1月21日（月）曇 大雪

1月22日（火）曇 濡雪少々

受 吉野忠一、戸辺（デ）正男俊夫（デ）

出 吉野（デ）小林正之（満鉄ユダヤ調査）山口重次（○物の礼）

1月23日（水）吹雪

雪の中を 8.55 のバス、酒田から 9.30 バス下肴町下車、急は休み、ぬかるみを歩きマルサンに寄り、しばらく話す、中村、病院、白井一辺見、三王前から 2.45 のバス酒田から 4.08 で帰る、

1月24日（木）猛吹雪（但し積雪は 16cm くらい）

受 都築（柱ごよみ 2 本）佐々木ハル（デ）仲條（デ）

出 都築 佐々木芳太郎（デ、2 回）

1月25日（金）吹雪

昨日よりは少しはよいが今日も猛吹雪が時に襲来。何もせずぶらぶら過ごしてしまった、仲條君から電話、29 日帰郷の由、また○藤先生の「北飽海の方言」を買ってほしいと頼まれ、佐藤敏君に依頼した

受 仲條 (デ)

出 佐藤敏 (デ)

1月26日 (土) 小雪

9時前、小松製作所工員永山純夫という人來訪、墓参の為。南部さんの俳句の弟子、モルモン教徒という、宇都宮出張前に廻って来たという、秋田廻りで今夜奥羽線寝台をとってある由だが、横手方面豪雪でどうなったかわからない、とにかく11.23の下りに乗らせることとし、踏切まで見送ったが、どうしたかわからぬ、11.40頃佐々木ハル女史が遊佐病院から来る、スイマグを渡す。12.40家を出て佐々木さんは西山食堂へ、私は公民館の農業調査親睦会へ

註 マルサン=鶴岡の薬局、主人は同志の一員

1月27日 (日) 小雪

8.55のバス5分おくれ、秋田方面大雪で列車が乱れているので、妙ちゃんも一緒になる、始発おくれのため山銀で9.30に連絡せず9.45。下肴町下車、忽ロシア語テキスト未着、主婦の店-病院-白井(昼食に鱈チリ)原稿を白井で仕上げ、本局から速達。医師会館で1.30から三山の会総会4.45終了バスで駅、5.12に乗る酒田で打ち切り。6.28のバスで帰宅

出 昭治 (原稿とデ)

註 三山の会とは出羽三山自然を守る会の事。

1月28日 (月) 雪

昼間は休まず降る、夜一時星空、夜8時頃約36cm大雪だ 午後仲條君に電話、新しい女事務員が出た。昨日は新聞が来ず、今日は昨日の新聞が配達された、奥羽線は今日も秋田新庄

間不通（一昨日ごろから）

受 真山（デ）

1月29日（火）雪

夕方ついに47cmに達した、近頃の大雪だ、9時頃正男君来、酒、正午前帰り行く、5日迎えに来てもらい昼食を正男宅で馳走されることを約す、今日仲條君が上京のはず、夕方昭治君から電話あり、来月17日中委のこととする、

受 昭治（デ）荻野文雄

註 中委とは協和党の中央委員会。

1月30日（水）小雪

8.55のバス、5分おくれのため酒田は9.45のもの、下肴町下車 園一病院、大場さんが来ている、粉海苔と靴下のみやげ、貞子さんは帰る、来月から手当ては2千円の由、いよいよ大変だ、八間町12.45のバス大分おくれる、本町下車、阿曾君 留守1.28で帰る。仲條君が東京から電話、留守番の事阿曾君に依頼、

受 小林正之、仲條（デ東京）

出 阿曾（デ）

註 大場さんとは山形の大場キミさん

1月31日（木）小雪

大分静かになった。12.54の上り（35分おくれ）で遊佐に行き和子さんを見舞う、南側の3

人部屋に移ってから始めてだ、稲垣氏〇のパステル額 2 つを持ち帰る。夜戸辺君から電話あり、仲條君の酒田移転を大いに嘆いている、

受 戸辺 (デ)

註 稲垣氏 = 稲垣志行氏 一時西山に在住 日本画家 将軍肖像製作